

名古屋市博物館の 魅力向上基本計画 【概要版】



令和4年3月

名古屋市博物館

1 基本計画策定の趣旨

名古屋市博物館開館後の約40年間で、世の中はIoT・ビッグデータ等の技術革新が進むとともに、価値観やライフスタイルの多様化及びグローバル化などにより人・物・社会の在り方が大きく変化する中、歴史・文化の調査・研究の中でも新たな発見が続いている。

一方で、高度経済成長に合わせて整備された公共施設の老朽化は日本全体で課題となっている。

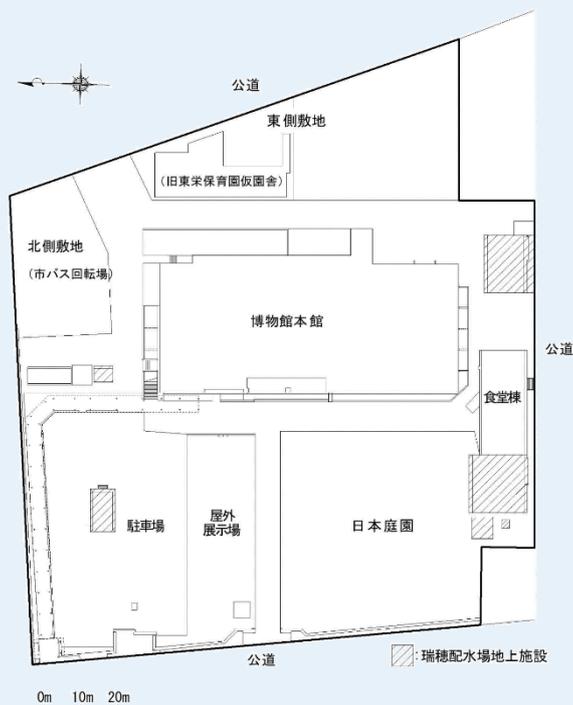
このような状況の中で、名古屋市博物館として、開館当初の基本理念を踏まえつつ、時代の変化に即した博物館に生まれ変わり、市民や来訪者の学習の意欲・関心を高めるとともに、より一層親しまれる博物館となるため、名古屋市博物館の魅力向上基本計画を策定するものである。

2 名古屋市博物館の概要

(1) 名古屋市博物館の概要

区分	内容	
所在地	名古屋市瑞穂区瑞穂通1丁目27番地の1	
敷地面積	15,100.39㎡ (東側敷地2,489㎡ 北側敷地1,000㎡(は除く))	
既存建物	建築面積	3,869.52㎡
	延床面積	18,821.59㎡
	建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上4階、地下2階
	駐車台数	74台 (うち障害者用2台)
	開館	昭和52(1977)年10月1日

(2) 敷地図



建物・設備の老朽化

- 国宝、国指定重要文化財の公開承認施設としての耐震性能の確保
- 屋上防水層の劣化
- 設備の老朽化
- バリアフリー対応の不足

展示室の狭あい化・陳腐化

- 最新の調査研究成果等の反映が不十分
- 展示手法の陳腐化
- 展示面積の不足

収蔵庫の狭あい化・機能不足

- 資料の増加に伴う収蔵面積の不足
- 資料の材質ごとの温湿度管理の不足
- 文化財 I P M（総合的病害虫管理）対策の不足

学習機能の充実・資料の公開

- 資料のデータベース等のインフラが未整備
- 収集図書の見覧等の環境が未整備

地域の活性化

- 前庭の活用状況の改善
- 敷地の一体的な活用による賑わい創出

4 新しい名古屋市博物館の姿

(1) 魅力向上のコンセプト

名古屋の歴史文化から「未来をつくる博物館」

市民の未来

子どもたちをはじめ、幅広い市民が主役となってともに学び、ともに未来を描く

名古屋の未来

名古屋の歴史・文化を継承するとともに、多様な主体と連携しながら新たな文化を創造する

博物館の未来

すべての人に開かれた新たな博物館のあり方や役割を、先進的な取り組みを通じて実現する

(2) 活動の基本方針

1 名古屋の魅力や価値を再構築し、未来へと継承する

開館以来、40年以上にわたり集積され、またこれから収集する歴史・文化資料や情報を市民の公共財として位置づけて保管・継承し、そこから明らかになる名古屋の歴史・文化の価値を高め、伝える活動を継続していくことを博物館の核となる事業として位置付ける。

2 歴史・文化資料から“物語”を紡ぎ、知的好奇心を刺激する

歴史・文化資料の価値や背景から名古屋ならではの独自性のある「物語」を紡ぎ、知的好奇心を刺激するストーリー性の高い情報の発信に努めるとともに、名古屋の魅力を国内外に広く発信していく。

3 人を育てる、人に育まれる

歴史・文化に立脚した郷土への愛着と世界への広い視野を持った未来創造の担い手となる子どもをはじめとする市民の育成に貢献する。また、生涯にわたって博物館に親しみ、市民が主役となって力を発揮しやすい仕組みづくりにより、人とともに成長する博物館を目指す。

4 人々の交流を創出し、地域づくりに貢献する

人々の交流や関連機関等とのネットワークをより活性化し、博物館を核とした地域づくりのモデルとなる取り組みを行う。また、敷地全体、さらに桜山エリア全体の魅力向上を図り、市域全体のシンボルになる施設を目指す。

5 人に優しく、社会状況にあわせて、持続的に運営する

現代における課題や社会状況に柔軟に対応しながら博物館のあるべき姿を追及し、すべての人に開かれ、親しまれる博物館として、発展的に成長できる仕組みや仕掛けを構築する。

5 建物・設備の改修方針

老朽化が進む建物・設備について、全面的なリニューアルを実施し、施設の長寿命化を図るとともに、博物館の機能を強化する。工事の際、資料はすべて館外へ退避する。

設備のリニューアルにあたっては、LED照明や省エネルギーに配慮した各種設備機器の導入を検討し、長寿命化とともに環境負荷の低減にも十分配慮する。

改修にあたっては「文化財公開施設の計画に関する指針」及び各種法令に準拠する。

<博物館機能の強化>

資料保管機能

- 収蔵庫の面積拡大
- 本館外収蔵庫の検討
- 収蔵環境の強化
- 耐震補強
- 浸水対策

調査・研究機能

- 資料の充実
- 資料システムの開発
- 必要面積の確保と設備の充実

展示機能

- 展示空間の拡大
- 展示環境の向上
- 展示内容の更新
- 時事展示室の新設

学習支援機能

- ライブラリーの新設
- ワークショップ棟の整備
- ICT技術の活用

交流・連携機能

- 敷地全体の賑わいの創出
- 他館との連携

アメニティ機能

- バリアフリー化の推進
- 授乳室・おむつ替え室・キッズスペースの新設
- 多言語対応
- 駐車場の拡大

6 展示計画

(1) 常設展示室

<展示方針>

今の私たちが生きる社会を形づくったものとして、名古屋を中心とする尾張地方の歴史や文化を提示し、過去の営みから来館者が未来を考えるきっかけとなる展示を目指す。

<展示構成>

通史展示

名古屋を中心とする尾張地域の歴史を、時代別に分けて紹介

歳時記展示

名古屋の祭礼、年中行事及び風物詩などを、一年のサイクルとして季節毎にまとめ、人々の社会生活や精神生活の様子を紹介

特集展示

定期的に展示替えを行い、調査研究の成果や資料などを紹介

<展示手法>

資料展示

実物資料等を間近に鑑賞・観察する基本的な展示

再現展示

昔の文化や人の営みを、背景から細部まで空間的に再現する展示

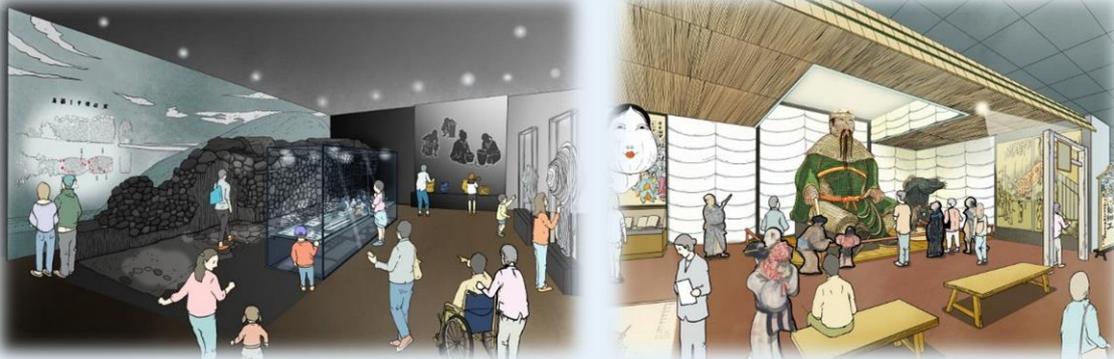
体験展示

触れる、聞くなど見る以外の感覚に働きかける展示

ICT活用

映像コンテンツ等のICTを活用した展示

<展示のイメージ>



(2) 特別展示室

- 名古屋・尾張の特色や魅力を伝えるため、資料などを活用しつつ、学芸員による調査・研究の成果を発信する企画展を開催
- 話題性の高い巡回展を誘致するために展示室を拡大し、国内外の歴史や文化を紹介する共催展、特別展を開催

(3) 時事展示室（仮称）

- 民間事業者等が実施主体となる現代的な展示・イベントなどを開催
- 民間の企画・運営力を活用しながら、今まで来館していなかった客層を取り込むことで集客力を高め、博物館活動との相乗効果を創出し、博物館に新たな魅力を付加

7 収蔵計画

- 改修後の本館収蔵スペースは現状と同等の面積を確保するとともに、現状の不足分及び将来収集分について別途スペースを確保
- 資料の配置について見直しを行い、必要な設備を整備



国指定重要文化財
秋草鶉図屏風（部分）



国指定重要文化財
三宝絵



国指定重要文化財
黒楽茶碗「時雨」

8 敷地全体の再整備

- 本館、前庭、東側敷地及び北側敷地を一体的に整備して、敷地全体で賑わいを創出
- 人々の交流や新たな来館者を呼び込み、博物館を中核として地域づくりに貢献

<西側からの眺望>



<北側からの眺望>



9 名古屋市博物館の再整備事業に関する検討

(1) 事業手法

博物館施設の改修及び管理運営については仕様発注及び直営方式を採用

(2) 計画期間

令和4年度から令和10年度

(3) スケジュール

区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
東館	工事	(仮収蔵庫)				改修設計	改修工事	ギャラリー等オープン
仮園舎	改修設計	改修工事	(仮事務室)			跡地整備設計	跡地整備工事	東館前庭オープン
資料移転	梱包	輸送				輸送・開梱		
本館・外構	設計		工事					
常設展示	設計		工事			●再開		
営業状況		休館				●再開		

(注) ギャラリーは令和5年度から令和10年度まで休止

<問合せ先>

名古屋市博物館総務課

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

電話番号：052-853-2655

FAX：052-853-3636

メールアドレス：a8532655@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

※名古屋市博物館の魅力向上基本計画は、博物館ウェブサイトでご覧いただけます。